

## 2011年 研究活動テーマ 概要

### テーマ：1 クラウドサービスのIT投資マネジメント

従来、日本企業ではITに関わる費用は必要経費という考え方が広くあった。また、ITを投資と考えても、それは中期の設備投資という考え方であり、投資によりリターンを求め、という評価がなされていない企業が多い。また、システム運用・保守コストは自社要員による管理を前提として固定的なIT費用として捉えられていた。情報システムをアウトソーシングする企業が増加し、今、さらにクラウドサービスを採用する企業が増えている。ITコストや投資をどのように評価するのか、その基準も変わらざるをえないのが実情であろう。短期IT投資コスト評価、中期IT投資効果の評価、クラウドをベースとした運用の費用管理、クラウド導入に伴う新たなトラブル対応など、今までに無い新たなコストが発生する場合がある。このようなクラウドを前提とした最適なITコストマネジメントを検討する。

### テーマ：2 クラウド利用のシステム構築のあり方

企業システムが既存システムとクラウドサービスとのハイブリッドシステム（組み合わせ）になっていくにつれて、企業におけるシステム構築では、システム移行・構築ツール・開発方法論など多様な要素が絡んでくる。業務システムへのクラウドの適用についてはシステムの種類によってはクラウドには向かないものもあり、業務やシステムの適性に応じた最適なインフラ選択が重要になる。企業においてハイブリッド環境を前提とした、システム開発の手法について検討する。

### テーマ：3 クラウドサービス活用のための情報セキュリティ

クラウドサービスを採用する企業が増え、ソーシャルメディアやスマート端末活用など、企業では採用に積極的ではなかったツールも消費者が先行して利用する環境になってきた。こうした中では企業内システムでの情報セキュリティの再考が必要になってきている。さらに、近年、日本企業は日本市場の頭打ち傾向からグローバルな展開を迫られ、効率化からサプライチェーンの深化が進み、社員の多様化によりワークライフバランスの変革などが進んでいる。社内情報システムがパブリッククラウド、プライベートクラウド、企業DB（レガシー）などハイブリッド環境に移行する中で、情報セキュリティレベルを維持してかつ、利用者から見て一括管理、一貫性、網羅性があり、システムを安全に利用できる環境が望まれている。この時代にどのようにして情報セキュリティ対策を実行すべきかの調査・研究を行う。

### テーマ：4 プライベートクラウドにおける運用・保守を考える

企業は、従来よりITコストの適正化の流れの中でレガシーマイグレーションやサーバ統合が進められてきた。クラウドサービスの有効活用するために統合されたサーバをプライベートクラウドに移行する動きがあり、企業グループ内へのクラウドサービス提供を検討する企業が増えている。クラウドサービス化に向けてハードの値段やミドルの機能のみならず、IT部門が提供するサービスメニュー・課金ノウハウについて考え方が緊急課題となっており、その運用も課題となっている。プライベートクラウドにおけるサービスメニューや運用ノウハウについて検討・研究する。

### テーマ：5 クラウドを活用したスマートコミュニティを考える

最近、低炭素社会に向けたスマートグリッド／スマートコミュニティなどが話題になっています。これらのサービスを実現するために、多くのデータやサービスを含むクラウドの活用について研究する。

## 2011年 研究活動テーマ 概要

<b>テーマ：6</b>	<b>ソーシャルメディアを活用した顧客とのリレーション、ビジネスの検討</b>
<p>消費者によるソーシャルメディア活用は企業による活用をはるかに先行し、特に企業ではソーシャルメディアを販促や、宣伝、保守サービス業にも活用することがもとめられている。 ブログ、SNS、Twitter、Facebookなどのソーシャルメディアをビジネスまたは顧客とのリレーションへ活かすソーシャルメディアを活用したビジネス事業モデル、顧客とのコミュニケーションのあり方を検討する。</p>	
<b>テーマ：7</b>	<b>スマートフォンの機能をビジネスシーンにどう活用するか</b>
<p>近年、iPhoneだけでなく携帯各社によるスマートフォンの商品が揃ってきており注目が集まっている。 スマートフォンは今までの携帯電話ではできなかったような、高度なアプリケーションを動作させることができ、携帯電話各社も新製品が次々登場している。スマートフォンが持つ位置情報や大きな表示画面などの特性を生かした活用の可能性が広がっているため、ゲームなどのエンターテインメント系で注目され、今後はビジネスユースでの活用に注目が集まっていくものと思われる。 本テーマではスマートフォンの機能をフル活用してビジネスへの可能性について検討する。</p>	
<b>テーマ：8</b>	<b>Webアクセシビリティ技術の検討</b>
<p>Webアクセシビリティとは、Webサイト利用者の年齢や身体的制約、利用環境等に関係なくコンテンツや機能を利用できること、およびその度合いを表すもの。自治体など公共性の高いWebサイトでは、より高いレベルのアクセシビリティが当然のものとして求められ、デザイン工学や認知学に基づいた原理・原則を土台にして、Webシステムのユーザインタフェースを設計・評価する際、どのようなアクセシビリティの考慮が必要となるかについて検討する。</p>	
<b>テーマ：9</b>	<b>Webクライアント (HTML5, Ajax, Silverlight) 最新技術の検討</b>
<p>HTML5、Ajax、SilverlightなどWebクライアントの最新テクノロジーで何ができるようになるのか？これからのWebはどのように変わっていくのか。 技術的な動向を把握した上で、最新Web技術の可能性を探る。</p>	
<b>テーマ：10</b>	<b>短サイクルで可視化と変化への対応を実現するシステム構築 (アジャイルな構築) 検討</b>
<p>Webベースの情報システムを、アジャイル開発で構築するための手法やウォーターフォール型の開発手法との違いを明らかにする。(実装言語/環境にRubyを使用)</p>	

## 2011年 研究活動テーマ 概要

### テーマ：11 エンタープライズサーチApache Solrを活用した効果的な 情報検索サービスを作ろう！

ファイルサーバやグループウェア、業務システムの中に単なる記録として埋もれてしまった情報資産を、利用者の状況に応じてタイミングよく、ピンポイントで見つけ出し、企業の価値を増量していく手段として有用なのが、エンタープライズサーチ。また、エンタープライズサーチを導入することで、企業が得られる恩恵は、必要な情報が見つかるという単純なものではなく、日常的に発生する情報に含まれる潜在的な価値を、顕在化させることができる。

本テーマでは、企業における情報資産の検索／共有について、現状の課題や問題点を整理し、その上で、効果的な情報検索サービスについて検討。エンタープライズサーチのオープンソースソフトウェアである Apache Solr と、他オープンソースソフトウェアを組み合わせ、情報検索サービスを作る。

※Apache Solr は、Apache Software Foundation が提供するオープンソースの検索サーバ。現在は Apache Lucene のサブプロジェクトとなっている。Lucene は Apache Software Foundation が提供する Java ベースの全文検索エンジン・ライブラリであり、Solr は Lucene を用いて構築されている。

### テーマ：12 ソフトウェアの品質および運用マネジメント品質管理の 標準化を定着させる

近年、ITの社会への適用拡大は目覚ましいものがあり、技術・規模の両面で開発難易度が上がっている。その上、ソフトウェア品質および運用マネジメント品質の要求レベルも高くなり、ひとつの不具合が関係各社にとって重大な影響を及ぼすようになってきている。そこで本研究会ではメンバー全員で現状認識し、同じ最終目標を立て、このテーマについて議論していくために、メンバーの経験や興味を共有し、事例紹介や研究を通し、品質上の成功要因と失敗要因およびその解決策を議論し全員で選定した品質向上策を検討する。

### テーマ：13 カードを活用したビジネス創出を考える

PCIDSSは加盟店・決済代行業者が取り扱うカード会員のクレジットカード情報・取引情報を安全に守るために、JCB、アメリカンエクスプレスなどの5社が共同で策定した、クレジット業界におけるセキュリティ基準である。このPCIDSSでは情報セキュリティに対する具体的な実装を要求して、クレジットカード業界以外でもPCIDSSを基準として採用し始めている。

多種多様なペイメントカード（クレジットカード、デビット、IC、ポイント・・・）を活用したビジネスを拡大させたいと考えている企業を対象として、カードのインターフェースや目的、さらには多種のペイメントカードとの連携や差別化、PCIDSSに準拠したセキュアなデータ取扱いの保障など、さまざまな視点からビジネス創出を検討する。

### テーマ：14 BtoC（アパレル系）ビジネスにおける顧客戦略について —顧客情報の活用実態と課題—

インターネット、Web2.0等のIT技術の発達とメーカー等の新規参入で、着実に市場拡大しているBtoCビジネス（通信販売、ネット通販、店舗小売業他）で今、店舗、ネット/携帯、カタログ等の販売チャネルとを連動させた顧客戦略が重要になってきている。こうした環境を前提にBtoCビジネスにおける顧客情報の戦略的な活用について、先進企業での事例紹介、参加企業の「顧客情報の活用実態と課題」の発表、検討および情報交換等を通して、アパレル系BtoCビジネスにおける顧客戦略に役に立つ顧客管理等を研究することを目的とする。

### テーマ：15 今後のダイレクトマーケティングに求められる サービス機能と品質について

製造業も含めた多くの企業でダイレクトマーケティングが展開されるにあたって今後想定されるダイレクトマーケティングのサービス機能或いはフィルフィルメントの機能の変化をどのような形でITで補っていくか、より品質を高めるためにはどのような工夫が必要か検討していく。

## 2011年 研究活動テーマ 概要

### テーマ：16 . NET基盤上での開發生産性を向上させるには

. NETベースでの情報システムを構築するための手法について基盤の有効性を実証する

### テーマ：17 グローバル時代に対応するIT技術者の資質と育成について

中国やインドとの協業するためのIT技術者の資質とは？また必要なスキルや要素技術、その育成方法とは何か？中国やインド等とのオフシェアや開発委託する際に留意すべき内容について検討する。

### テーマ：18 業務の見える化を図る

多くの人に関心を寄せている業務の見える化とは何か？そのキーワードが意味するところの目的、対象、ゴールは様々であると想定される。一般動向、メンバーの関心事なども交えて業務の見える化とは何か、何を研究テーマとして取り上げるべきか考えるところから活動を着手し、業務の見える化に対する関心事の例を意見交換して、各部署の業務の見える化により部署間のコミュニケーションを円滑にしたいとか、経験豊かな社員の業務ノウハウを見える化したい、業務改善を行うために役立つ業務の見える化を研究したいなど検討する。

### テーマ：19 ワークスタイル変革によるワークライフバランスの推進

先進企業では、在宅勤務やモバイルワークに代表される勤務場所を選ばない働き方のテレワーク、そして事業所の中でも執務場所を選ばないフリーアドレス、働く時間をフレキシブルにするフレックスタイムや裁量労働、時短勤務などを採用する企業が増えている。ワークスタイル変革の目的は生産性、業務効率の向上である。通勤や移動といった特定勤務場所に行き来するための時間をなくすことでその移動に使っていた時間を業務やプライベートに活用できる。執務場所を固定しないことにより、配置に制約されることなく業務上のコミュニケーションを図ることが可能となる。もうひとつの目的は、育児や介護その他の時間と場所の制約を抱えた社員でも会社を辞めることなく働き続けることができる、教育を受けた優秀な社員が業務以外の理由で退職する原因を減らすことができるということである。ワークスタイル変革、という多くの企業に共通するニーズに焦点を当て、ワークスタイル変革の背景や必要性を踏まえて企業がどのように変革実践を行っているのか、そしてそれを支える技術や制度、仕組みなどを研究する。是非とも女性の方も積極的な参加を促したい。

### テーマ：20 若手IT技術者の仕事を検討する

若手IT技術者が仕事に打ち込むための方策を参加メンバーと意見交換しながら研究テーマとして取り上げていく。異業種の交流と知識、経験の差をいかに有効にするために最低限今、必要なこと、課題など、取り上げて議論する。入社4年～5年の若手IT技術者を対象に参加者の意向を重視しながら検討する。